環境経営レポート

2021年度
2021年4月～2022年3月

名瀬港運株式会社

2022年6月1日

目　次

	環 境 経 営 方 針	1
Ⅰ．	登録事業所の概要	2
Ⅱ．	主な環境負荷の実績	3
Ⅲ．	2021年度環境目標とその実績	3
Ⅳ．	2021年度環境活動計画の主要内容と評価及び2022年度の計画	4
Ⅴ．	2021年度現在の取り組みの様子	5
Ⅵ．	環境関連法規制等の遵守状況、法違反、訴訟等の有無	6
Ⅶ．	代表者による全体評価と見直しの結果	6

名瀬港運株式会社
環 境 経 営 方 針

私たちは、地球温暖化やエネルギー問題さらに、地域の目指すより良い環境づくりの重要性を認識し、当社事業活動における環境対策やエネルギー効率の向上を図る為に、積極かつ創意工夫して環境経営に取り組みます

1. 具体的に次のことに取り組みます。
   ① 電力の使用量の削減
   ② 燃料の使用量の削減
   ③ 廃棄物の３Ｒ（減量、再使用、再生利用）の推進
   ④ 水の使用量の削減
   ⑤ 地域社会における環境保全活動
   ⑥ 化学物質の使用量の削減
   ⑦ 環境配慮型事業の推進

   これらについて環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. 環境経営方針は全従業員に周知するとともに、社外に公表します。

制定日：２００８年１１月１７日
改訂日：２０２１年　４月　１日

代表取締役社長　有村　忠洋

Ⅰ．認証登録事業所の概要

1．事業所名及び代表者名
　名瀬港運　株式会社　　代表取締役　有村　忠洋

2．所在地（認証・登録の適用事業所）
　本　　社　　：〒894-0035鹿児島県奄美市名瀬塩浜町17番7号
　港町営業所：〒894-0026鹿児島県奄美市名瀬港町11番3号
　整備工場　：〒894-0006鹿児島県奄美市名瀬小浜町2284番地1

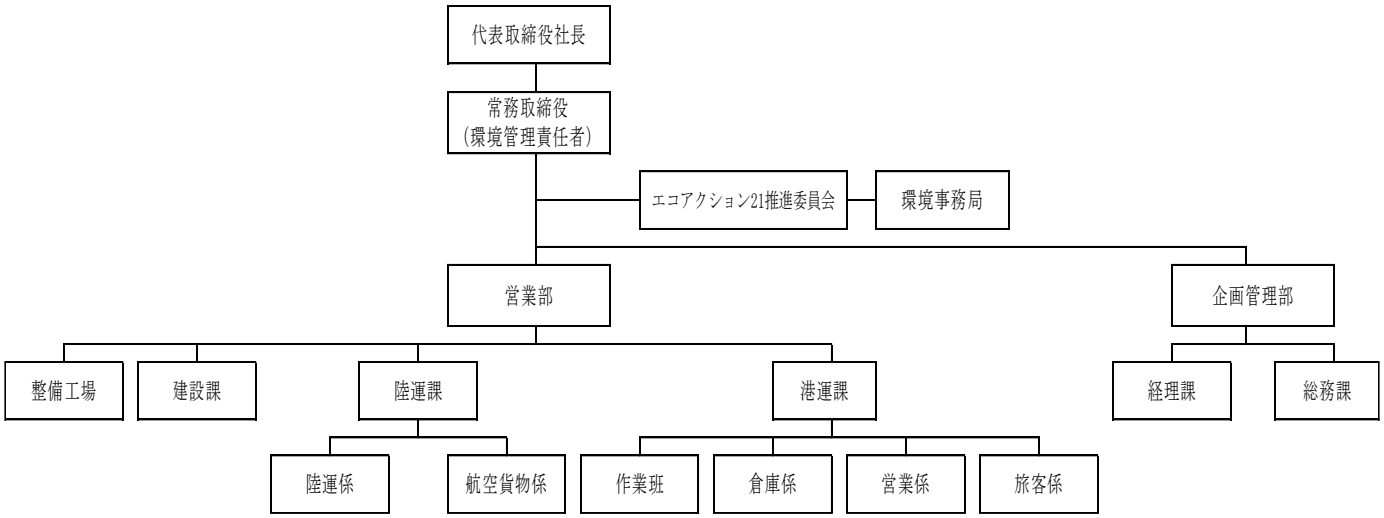
3．環境保全関係の責任者及び担当者連絡先
　環境管理責任者：村田　末和　　環境事務局：濱田　誠太郎
　連絡先：（TEL）0997-52-2311　　（FAX）0997-52-6777
　　(E-mail) nzk-kikaku@nazekouun.co.jp

4．事業及び許可内容（認証・登録の範囲）
○一般港湾運送事業
　運輸大臣免許　港政第８３１号　名瀬港１種第２号（昭和３９年８月）
○自動車運送事業
　一般自動車運送事業　福岡陸運局長許可　福陸自第２９９８号（昭和４０年６月）
○土木建築工事業
　鹿児島県知事許可（特定２）・（一般２）第１６７２号（令和2年7月10日～令和7年7月9日）
○産業廃棄物収集運搬業
　（1）　産業廃棄物収集運搬業許可（鹿児島県）許可番号04610049437号
　　［許可年月日：令和１年11月９日　　許可有効期限：令和５年11月８日］
　　廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む。），ゴムくず，金属くず，ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む。），がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む。），燃え殻，汚泥，廃油，廃酸，廃アルカリ，木くず（石綿含有産業廃棄物を含む。），動物性残さ
　　以上12種類（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
　（2）　産業廃棄物収集運搬車両　　7tユニック車　10tユニック車　4tダンプ車　他
　（3）　2020年度産業廃棄物収集運搬実　　75.0 トン　（自社分）　　173.2 トン　（受託分）
○一般廃棄物収集運搬業
　（1）　一般廃棄物収集運搬業許可（奄美市）許可番号第２０号
　　［許可年月日：令和２年４月１日　　許可有効期限：令和４年３月31日］
　（2）　一般廃棄物受託収集運搬実績　港湾での荷役に伴う収集運搬であり、受託量の把握はできない。
○自動車整備事業
　自動車分解整備事業認証　福陸整第1840号（昭和47年11月）
○旅　行　業
　鹿児島県知事登録　第2種　第54号（昭和46年11月）

5．法人設立　　昭和30年10月

6．事業規模　　資本金　　30 百万円
　　売上高　　約 469 百万円（2021年度）
　　従業員数　　61名　　（パート・アルバイト含む）

7．組　　織



Ⅱ. 主な環境負荷実績

過去の環境負荷実績は下記の通りである。

項　目		単　　位	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素排出量	電力	kWh/年	49,338	53,350	56,468
		kg-CO2/年	18,255	19,739	20,950
	燃料	ガソリン(L)/年	7,760	6,453	4,653
		軽油(L)/年	145,131	136,089	129,398
		kg-CO2/年	398,876	372,116	344,642
廃棄物排出量	産業	トン/年	48.6	1.7	75.0
廃棄物収集運搬量	受託分	トン/年	16.0	60.1	173.2
	自社分	トン/年	48.6	1.7	75.0
水使用量(排水量)		m^3 /年	297.0	245.0	293.0

電力のCO_2排出係数は九州電力㈱調整後排出係数2019年度　0.371kg-CO_2/kWh　を使用

Ⅲ. 2021年度環境目標とその実績及び2022年度目標

2019年度からの中期計画(2019～2022年度)は、2016年度～2018年度の平均値を基準とした目標と計画を策定し、その3年目としての2021年度の実績について評価を行う。

項　　目	単位	基準値	2021年度			2022年度
			目標値	実績値	評価 ○達成 ×未達	目標値
1.電力の使用量の削減	kWh	66,803	64,799	56,468	○	64,131
	kg-CO_2	24,784	24,040 △3%	20,950 △15.5%	○	23,793 △4%
2.燃料の使用量の削減	ガソリン(L)	7,882	7,646	4,653	○	7,567
	軽油(L)	147,130	142,716	129,398	○	141,245
	kg-CO_2	397,882	385,945 △3%	344,642 △13.5%	○	381,966 △4%
二酸化炭素合計	kg-CO_2	422,666	409,986 △3%	365,591 △16.4%	○	405,759 △4%
3.産業廃棄物の削減	%	リサイクル率 100%	100%	資源化量/排出量 75.0t/75.0t	○	100%
4.水使用量削減	m^3	348	338 △3%	293 △16%	○	334 △4%
5.地域社会における環境保全活動	回	41	41	42 102%	○	41
6.化学物質削減(有機溶剤)	kg	330	320 △3%	224 △32.1%	○	317 △4%
7.環境に配慮した事業推進	回	2	2	2 100%	○	2

※ 電力のＣＯ$_2$排出係数は九州電力㈱調整後排出係数2019年度　0.371kg-ＣＯ$_2$/kWh　を使用

※ ガソリンのＣＯ$_2$排出係数は 2.32kg-ＣＯ$_2$/ℓ、軽油のＣＯ2排出係数は 2.58kg-ＣＯ2/ℓを使用

※ 本社屋上に設置した太陽光発電の効果について
2021年度の電力使用量に占める太陽光の発電効果は、全社で13.5%、本社のみで40.4%になります。

Ⅳ. 2021年度環境活動計画の主要内容と評価及び2022年度の計画

取組み実績	今年度の取組み内容	評価	2022年度の計画
1.電力の使用量の削減	・室内の温度を夏26℃、冬20℃に設定。 ・カーテン、ブラインドと扇風機を有効活用。 ・照明の未使用時はこまめに電源を切る。 ・太陽光パネルを活用して、自家消費量を増やして買電量及びCO2削減に努める。	○ ○ ○ ○ ○	・室内の温度を夏26℃、冬20℃に設定。 ・カーテン、ブラインドと扇風機を有効活用。 ・照明の未使用時はこまめに電源を切る。 ・太陽光パネルを活用して、自家消費量を増やして買電量及びCO2削減に努める。 ・感染症対策としての換気とバランスを考慮したエアコンの使用に努める。
2.燃料の使用量の削減	・運行管理システム『みまもり君』を有効活用しエコドライブの徹底を図る。 ・車間距離を守り、急発進・急加速・急停車をしない。 ・新型車両(トラック・フォークリフト)を活用した効率的な配車・荷役を行う。 ・事前に現場・作業環境を確認し、効率のよい輸送計画を立案する。	○ ○ ○ ○	・運行管理システム『みまもり君』を有効活用しエコドライブの徹底を図る。 ・車間距離を守り、急発進・急加速・急停車をしない。 ・新型車両(トラック・フォークリフト)を活用した効率的な配車・荷役を行う。 ・事前に現場・作業環境を確認し、効率のよい輸送計画を立案する。
3.廃棄物排出量削減 (工事現場)	・現場での分別の徹底や再利用、資源化等の取組みの実施。 ・過剰発注、工程ロスを削減し廃棄物削減に取り組む。	○ ○	・現場での分別の徹底や再利用、資源化等の取組みの実施。 ・過剰発注、工程ロスを削減し廃棄物削減に取り組む。
4.水の使用量削減	・水使用箇所に節水ラベルを表示。 ・雨水タンクの継続利用。	○ ○	・水使用箇所に節水ラベルを表示。 ・雨水タンクの継続利用。
5.地域社会における環境保全活動	・事務所周辺の道路や側溝の清掃を定期的に実施。 ・花壇を作るなど、美化活動に取り組む。 ・港周辺の清掃活動の実施。	○ ○ ○	・事務所周辺の道路や側溝の清掃を定期的に実施。 ・花壇を作るなど、美化活動に取り組む。 ・港周辺の清掃活動の実施。
6.化学物質の使用量の削減 (有機溶剤)	・作業ミスによる使用量増加抑制。 ・有機溶剤の保管庫の管理の徹底。	○ ○ ○	・作業ミスによる使用量増加抑制。 ・有機溶剤の保管庫の管理の徹底。
7.環境に配慮した事業推進	・燃費の良い車両(トラック、フォークリフト、社用車)の採用。 ・業務で使う機器・車両等は省エネ性・安全性の高いものを採用。	○ ○	・燃費の良い車両(トラック、フォークリフト、社用車)の採用。 ・業務で使う機器・車両等は省エネ性・安全性の高いものを採用。

※2022年度は全項目達成
○:達成　　×:未達

Ⅴ.2021年度現在の取り組みの様子

1. 消費電力の削減

・エアコン温度設定と節電の徹底

社内エアコンスイッチの箇所に冷暖房の設定温度（冷房26℃暖房20℃）を掲示し、使用電力量の削減に取り組んだ。また照明スイッチのある箇所に節電を呼び掛ける掲示なども いる。

節電の呼びかけを実施

2. 廃棄物排出量削減

・社内の分別の徹底を図る為、廃棄物置場には分別の掲示をしている。

・年度末の書類整理等で出たファイルなどの再利用に取組んでいる。また再利用を視野に入れた事務用品の購入にも取り組んでいる。

3. 清掃活動

・朝礼前と終礼後に10分程度の清掃活動の実施と呼びかけをしている。

・年に2回、1日清掃活動を実施、営業所内・営業所外敷地の清掃に取り組んでいる。

清掃活動の様子

4.環境に配慮した業務用車輌・重機等の導入

○環境に配慮したAdBlue(尿素水)の導入。燃焼の向上とNOx.PMを同時低減、CO2削減の削減対応

社内車輌のAdBlue導入車の保有台数

・車内営業車輌（トラック） 27台（内6台はトレーラ）

・2021年AdBlue導入車輌台数 14台 /20台

車両入替のトラックをAdBlue対応車に変更、今後も車輌入替に伴い低燃費・AdBlue対応車を導入予定。

・電動フォークリフトの導入

管理部門でフォークリフト稼働状況の見える化を実現し作業現場の状況を把握している。

稼働時間・走行距離のデータから車両のエコを意識した運転指導に役立てている。

最新のバッテリーフォークリフトを導入。管理部門で稼働状況・走行距離などの見える化を実現。

Ⅵ. 環境関連法規制等の遵守状況、法違反、訴訟等の有無

法的規制を受ける主な環境関連法規は次のとおりです。

法規名	該当する項目	遵守評価
廃棄物処理法	一般・産業廃棄物収集運搬・処分 (許可・委託契約・マニフェスト・実績報告・表示等)	適正処理
建設リサイクル法	建築物の解体工事等で生じる建設副産物の リサイクル及びリサイクル品の活用	適正処理
騒音・振動規制法	低騒音・低振動杭打ち工事	遵守
家電リサイクル法	エアコン、冷蔵庫、テレビ、洗濯機のリサイクル適正委託(料金・伝票)	遵守
自動車リサイクル法	購入時のリサイクル料金支払い	遵守
フロン排出抑制法 (フロン回収破壊法の改正版)	業務用エアコン廃棄時フロンの回収・破壊許可業者委託 業務用エアコンの簡易点検と7.5kW以上の業者点検化	遵守

環境関連法規制等の遵守状況を評価した結果、エコアクション21導入後12年間、法的違反や訴訟、苦情はありません。

Ⅶ. 代表者による全体評価と見直しの結果

○世界自然遺産登録を目指す地域にある一企業としての役割

港湾(海)に関わる事業を行う企業として、また、世界自然遺産登録を目指す地域の企業として、2009年7月にエコアクション認証登録を行って以来2022年度で12年を迎えました。

今後も、港湾運送業・一般自動車運送業・建設業・自動車整備業・旅行業と幅広い事業の中で、それぞれの業務で使用する機械・設備を常に新しい環境技術のものに更新・採用していく予定です。

○環境に配慮した製品の導入

2021年度もこれまで同様に低燃費・低騒音・低排ガス性能の車両の導入、環境に適したエンジンオイルの導入、グリーン購入法適合商品に切り替え、環境に配慮した製品の導入・活用を進めました。

○業務における環境改善

2012年度に本社屋上に太陽光パネルを設置。本社の電気使用量の約50%をカバーしています。

また、夜間荷役作業時の照明のLED化、フォークリフトへのLED照明の取付を行い、消費電力の削減と安全な作業環境作りに努めています。

○ 〝省エネ・創エネ・蓄エネ〟の環境活動を継続

これまで導入してきたトラックやフォークリフトの燃費性能の良さが効果(数字)として表れてきているので、今後も社員一丸となり〝省エネ・創エネ・蓄エネ〟をキーワードにして、脱炭素社会の実現への取り組みとSDGsの視点を取り入れ、地域と共に持続可能な発展を目指した環境経営・環境活動に取り組んでいきます。